

④ 交通のうつりかわり

むかしの道路は、道はばがせまく川ぞいや、山ぎわを通ったり、けわしい山道や、坂道が多かったり、雪のつもる季節には、いききができなくてこまることもありました。今のように自動車がない時代には、白河や矢吹へ買い物に行くのも、歩いて行くか馬をつかうしか方法がありませんでした。

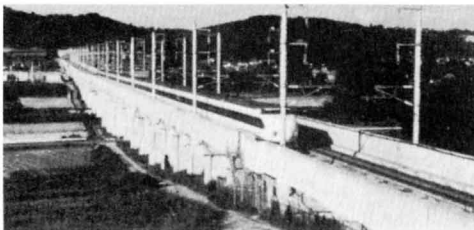
定期^{ていき}バスが通うようになると、バスで白河や矢吹へ買い物に行けるようになり、病院^{びょういん}へ行くのにも、そう時間をかけなくてすむようになりました。

今では、ほとんどの家で自動車をもつようになりました。その上、道はばを広げまっすぐにしたり、ほそうしたりしたので、交通はますます^{はったつ}発達しべんりになりました。

★交通の発達のようすをしらべましょう。

交通のうつりかわり

江戸	明治	大正	昭和	和
	四〇〇年 ほど前	一八八七	一九六〇 一九二七	一〇六八 一九七三 一九七〇 年ごろ
<ul style="list-style-type: none"> ・東北新幹線が通った。 ・矢吹・天栄線がせいびされた。 ・東北縦貫自動車道ができた。 ・日和田―上小屋間の道はばを広げ道路がほそうされた。 ・限戸にはばの広い新しい道路ができた。 ・矢吹―天栄線の下新城―堂山に新しくはばの広いまっすぐな道路ができた。 ・東北本線がふく線になった。 ・限戸川万ざい橋が新しくなった。 ・このころから自家用車が入った。 ・中新城に道はばが広いほそう道路ができた。 ・東北本線が電化された。 ・白河―牧内・矢吹―上小屋の間をタクシーが通った。 ・県南バス(今の福島交通)が開通した。(白河―牧内・矢吹―原町) ・東北本線が開通、白河・矢吹駅ができた。 ・このころから荷駅車が利用された。 ・自転車がつつうの乗物となった。 ・奥州街道がせいびされた。 ・茨城街道ができた。(白河―町屋―大里―牧内) ・大信村を通って会津へ行く会津街道ができた。 ・(飯土用―上小屋―牧内) 				



中新城を走る東北新幹線



上小屋―十日市方面への県道 91.11